# Samurai Sailors in Falmouth
## ーMirror World 2017 に参戦してー

<会員　高石　芳徳>

そもそも私が始めて Mirror に出会ったのは、かれこれ 30 年ほど前のこと、ロンドンを流れるテームズ川の河口でのことでした。 FRP 艇で育った私には木肌が綺麗なその姿はまさに、「ミニ帆船」のように感じたものです。

そして数年前のボートショーで久しぶりに、Mirror に再会し、以降、皆さんのお仲間に入れていただくようになりました。 そのような中、加藤会長から 2017 年の World がイギリスで開催され、参加も夢ではないと伺い、参加を日々夢描くこととなりました。

たまたま、2016 年の夏にイギリスに行く事があったため、自分は参加できずとも参加される方々への情報提供のためと思い、現地視察に赴いたのでした。 現地を訪れてみたら、それは美しい海、広がるイギリス独特の丘陵、そして何よりもおいしい海産物の宝庫、帰国後、直ぐに皆さんに是非行きましょう！と声をかけまくったのでした。

そして、2017 年、加藤会長他、西日本からは秋田さん、其田さんのエントリーも確定し、仕事の休暇取得で悩んでいた私も、強い偏西風に乗せられ、参加させていただくこととなりました。

Falmouth は Great Britain Island の西南端である Lands End に程近い、ロンドンからは、なかなか訪れる観光客はいないものの、イギリス人憧れの保養地です。

大会会場となった Mylor はイギリス海峡に面した Falmouth 湾の奥に位置する Mirror の聖地といってもよい街でした。

日本からの参加者は総勢 7 名、東日本組みと西日本組みで分かれての Falmouth 集合となりました。

7 月 28 日朝、ロンドンに到着した私は、午後には翌日からの移動の足となるレンタカーをピックアップしました。当初はそれほどでもないと思っていた荷物も、4 人分のことや、現地で他メンバーも同乗する可能性もあることを考え、急遽、ハイエースより一回り大きなワゴンに変更し借りることにしました。

7 月 29 日、ヒースロー近くの同じホテルに宿泊した

4 名は、しっかりと腹ごしらえをして、15 時には大会会場に着いて、日本から先に其田さんが送ってくださっているセールの計測を行わねばならないことにも十分な余裕をもち、朝、9 時過ぎには一路、280Miles （約 450Km）先の Falmouth を目指し、スタートとなりました。

イギリスは左側通行で、とても運転マナーの良い国、第 2 東名の更に 2 倍ほどの幅の高速に、一般道でも信号機の要らない環状の Roundabout 交差点と、とても走りやすい為、休憩時間を加味しても 1 時間＝100Km のペースで走ることが出来ます。

私たちは、元来、ドライブ好きの私のハンドルで、ヒースローから、イギリスの東名高速のような東西を走る「M4」→Bristol 近郊でイギリス西側を南北に走る東北道のような「M5」に移り→Exeter で 中央道のような少し狭目の「A30」→「A39」へと車を走らせました。

途中には日本でも有名な観光地「Cotswold」、「Birth」、その昔は自動産業で大変有名だった「Bristol」の街々が在りますが、今回は目向きもせずに、一路西南を目指していきます。

イギリスの高速道路は日本とは異なり、ごく一部、非常に短い区間の橋やバイパスなどで通行料が発生するところもありますが、基本的には全て無料、速度制限も 3 車線以上の区間は 70Mile（約 115Km）です。 最初はすれ違うトレーラーの大きさや、車窓の美しさに、感嘆していた同乗者も長旅の疲れか、ウトウト。 2 度のサービスステーションでの休憩、昼食購入以外は、助手席の加藤さんのみは気付いていたかもしれませんが、制限速度＋XX%Over でのクルーズで予定よりも早めの 14 時 30 分ころには大会会場に到着することが出来ました。

1 年ぶりの Mylor は夏でも肌寒く、翌日からのレースには日本の冬支度が必須であることを感じさせたものでした。 会場では早速、日本から届いていたセールの計測を行っていただき、無事、合格。

西日本から参加の其田さん、秋田さんご夫妻とも合流し、早々に宿舎に向かいました。 今回の宿舎は会場から 10Km ほど離れたところにある、この地域 Cornwall の大学が併設する寮を使用しました。

自炊が行えるようにと選んだキッチン付きの宿舎は、非常に快適で、そのダイニングキッチンはメンバー全員が一緒にテーブルにつくこともでき、キッチンも数名が同時に調理にかかれるほどゆったりしたものでした。

早速、皆が持参した食材を並べます。 驚いたのは、さすが加藤さん、米、味噌に加え、なんと自宅で使用されている包丁とまな板まで持参されていました。

「食当」を言いつかった私としては、これはがんばらねばと買出しリスト作成です。 そのリストを元に、車で 5 分ほどのところにあるウォールマート系のイギリスのスーパー「Asda」に向かいます。 Asda は安くて品揃えも多く、質もそこそこなので、近くにあったこと、この後も非常に助かったものです。

久しぶりの合宿買出し、日本の 2、3 倍あるカート 2 台にバンバン放り込みます。 バンバンとはいえ、皆さんの健康第一を考え、トマト、ほうれん草、サラダ菜、キュウリ、ニンジン、マッシュルームなど野菜を多めに、オレンジ、バナナなどフルーツはそれ以上に。 その他には牛肉、サーモン、翌日からのレース期間中の昼食となるサンドウイッチの材料として、ハム、チーズに、中東料理では有名な「ひよこ豆のペースト（Fumusu）」なども購入。もちろん調味料も買い足します。 ちなみに醤油はキッコーマンもあったのですが、あえて、中国醤油。 そして忘れてはならないのが、宿舎での燃料「Beer」＆「Wine」でした。

初日夜には、早速、それらを用いた日本の食卓のようなメニューで、翌日からのレースの安全を願いカンパイして早々に翌日の為、Bed についたのでした。

～ 7 月 30 日～8 月 4 日 レース期間はオンタイム表現 ～

7 月 30 日 開会式～プレ・レース。

開会式では、ちびっ子に混じり、ちょっと恥ずかしくも感じながら、日本国旗ともに、「君が代」が心に沁みます。

レース期間中、加藤さんの艇で Crew を務めた私ですが、初日の気持ちのよさに「本当に来てよかった!」と実感。

艇を貸していただいた Martin さんの艇は家具のような仕上がりの木造艇。 プレーニングではハルを打つ、波のいい音がします。 これぞ木造艇。

日差しがあたると、キラキラした水と丘陵の緑、広がる青空、イメージでは湖でセーリングしているような感じなのですが、水域の広さは比べ物にはなりませんし、イギリス海峡から吹き込む風が丘陵の間から突風となるブローも強く、楽しくて仕方がない海面です。

7 月 31 日 Day1

朝からの凹み。

朝の艤装時、「フォアステイはテンションしっかりかけるぞ!」とのこと、大人二人で引いていたところ、「バツッ」との音とともに、マストが折れた！（久しぶりに見事な尻モチを見たのでした。）

艇を貸していただいていた、Martin さん 「ごめんなさい。」 コリュージョン（アルミさび）が出ていたからと言われたものの、初日から先行き少々ブルーなスタートです。 早速、関係者のご好意で艇をスイッチし、FRP 艇にて参戦。

初日とは打ってかわり、風もそこそこ吹いています。 加藤さんはかなりの博打打だということに始めて気付いたのも、このあたり。 昇りは常に One タック！ タッキングでのスピードロスを極力抑えた無駄のない走りで、最初の上マークでは大混戦に突っ込みます。

そして下マークからの昇り、「あれっ！！だめだ こりゃ」との加藤さんの声。。。ティラーがラダーから外れてしまいました。 残念無念。 レスキュー艇に引かれての帰還です。 レスキュー艇にも水深計が付いているほど、皆、汐には気にしているようです。

そして Martin さんの艇のマストに続き、ラダーも Broken させてしまった我々。 もともと Martin さんの艇のラダーは一度折れたものを修理してあり、そのあたりが再度割れた為でしたが、Martin さん 「またしても、ごめんなさい。」

8 月 1 日 Day2

昨日、ラダー不具合を起こしていたものの、早速マーティンさんは別のラダーをニコニコしながら用意してくれていました。「日本から来ているんだから楽しみなよっ!」と無口ながらも、優しい目が語っていること、心から感じました。

レースは順調です。 昨日よりも風が強くなり、突然入るブローは先を行く艇のセールから予測しなければ、直ぐにおいていかれるほどでした。 Mirror でこんなにハイクアウトするの??というほど。 加藤さんは相変わらずの博打ち昇り。

上マークでは昨日以上の大混戦です。 子供たち相手にスターボーコール炸裂～。 風は冷たく、昨日、レース後にハーバーでスプレージャケットを購入しておいたこと、あらためてよかったと感じたほどの寒さでした。

順調にスタートし、2 度目の上マーク回航、サイドに回るところ、「じゃスピン上げるか！」と言うタイミング。「うん？ジブセールのタックが外れた！」 下りで稼げるはずのセクターでのトラブル。 仕方なく、ジブは手繰り寄せ、メインのみでの Finish。

その後、次のレースまでに、もともと短かったラインを解き、結びなおし、2nd レーススタート。 そして、まさかの。。。 またしても、ラダートラブル。 レスキューコールでのリタイヤです。

Martin さん「本当に、本当にごめんなさい。」

このころから、日本チームのことを Ruder Broker と大会本部では呼んでいたとか！？

8 月 2 日　Day3

Martin さんに昨日も壊れたラダーを示してしまった我々は、今日はさすがに艤装品足りずに No レースと思い、セーリングの準備もせずに会場に行ったものの、そこには、ニコニコした顔で Martin さんがラダーを用意してくれているではないですか。「さあ、ガンバレ」との無言の応援とともに。

1stレースはあきらめたものの、早速宿舎にギアを取りに戻り、2ndレースから参加。 皆さん、本当にありがとうございます！

今日も風は強く、空はシルバーグレーとスカイブルーの競演です。 更には時折のシャワーレイン。 日が出ていなければ、結構寒さも感じます。 イギリスの空、やはり女心以上に変りやすいものでしょうか。

そしてレースは順調に進みます。 レース終盤、下りにて、またしても「ジブセールのタックを結ぶシートがとんだ！」 出艇前のチェックの甘さを自分でも悔しく悔やみながら Finish。

同じトラブルを 2 度も繰り返すなどありえない。

「自分の艇は自分で責任を持って、最終確認をすること。」、「艇は海に出るのに命を預けるものだ。」という学生時代の言葉をあらためて思い出しました。

その後は、かなり風も強く、天気も悪くなり、体温も奪われ始めた為、Helms の判断でリタイヤ。

8 月 3 日　Day4

朝から突風と強い雨の最悪のコンディション。 日本の草レースならNoレースでしょう。

しかしながら、そこは World、日頃から強風の中でセーリングしているとの南アフリカチームは、早く出艇しようとNotice Bordすら見に来ない。

皆準備を始める。 いざ、出陣 Samurai Sailors！

艤装確認は 2 度行います。 それも加藤さんが艤装した後のセクションも含め。

海面はかなりの波と風、更には視程が悪い。 加藤さんは、下にセーターを着込んでの防寒対策です。

1stレースはいつもの加藤さんのウルトラスタートで、ほぼJust Start。他の艇とタックは異なるものの、いい昇り具合です。 大人二人のウエイトでヒールを殺し、上マークにJustで、入れるポジションでタッキング。 またしても大混戦です。 子供たちはヒールが殺せず、沈続出。 上マークでは混戦もあり入りきれずに、リタック。 強風、波、ブローはますます激しくなります。 サイドマーク付近で沈艇続出。 下マーク回航ジャイブでは、バランス崩しコックピットにかなりの水が。 しかしながら、強風に強い大人二人組み。 今レガッタ中、最高のポジションを獲得できました。

2nd レースは更に悪天候下で進みます。 昇りでの One タック戦法はいつものとおり。 1St レース時以上の Gail にすさまじいブロー。 子供たちも、声が荒立っています。
そんな中でのタック、何かが違う!? セールの返しとバランスが合わない？ 加藤さんから「ブロック脱落！」とのコール。 ブームにメインシートブロックを止めているリベットが抜けました。 幸い、その艇はブームエンドからセンターまで、メインシートを引く際にブームソックスでメインシートをブームに這わせていた為、何とかセンターで引けます。 この強風ではとてもテンションがかけられないとの事で、あえなく、運営艇には自搬送で戻ると伝え、リタイヤとなりました。
しかし！ ここからが、なかなか大変。 なるべくタック、ジャイブを少なくし帰還するようにしたため、レース海面から外れ、Falmouth 湾近くを回ったところ、とんでもない強風。 帰還した際には、二人ともくたくたでした。
後で聞くと、私たちが帰還した際にまわったあたりは、ガストで 20mは吹いていた様子。 クラブの方にも、壊れたブームでよく強風の方に回ったと言われたほどでした。

8 月 4 日 Day5
本日は帰国準備、セール発送手続きなどの為、私たちはリタイヤして後片付け。
そして最終日ゆえ、表彰式。
さすがウイットにとんだイギリス人、私たちのために「Ruder Broker」大賞なる賞を用意してくれました。
本当に Martin さん おせわになりました。

レース翌日、8 月 5 日、8 時過ぎに Falmouth を出発し、途中 1 回の休憩で 280Mile 約 450Km を走りヒースローに向かい、無事、Samurai Sailors は解散、わたしはその足で現実の地、灼熱の日本に戻りました。

Mirror World の At Home な雰囲気。
是非、日本にもいつかと思い夢の日々を思い返す日々です。

次回、Mirror World は 2019 年 1 月にシドニーで開催されます。
Mirror Mate 次号では 2019 年大会の予定について、詳しくお伝えできると思いますので、お楽しみに。
そして、是非、自艇を持ち込めるよう、いまから念入りな手入れをされてはいかがでしょうか。

写真集
Nations Night

レース後の親睦

BAR
ALES
FOOD

ST MAWES SPECIALS
Welcome to the
2017 Mirror Dinghy
World Championship Party!

Falmouth の観光

Pendennis 城

Pendennis の岬から眺めたイギリスの海

Falmouth Harbor

Falmouth 市街